

ヘルスケア

国循、「健都」で始動 共同ラボに帝人など13社

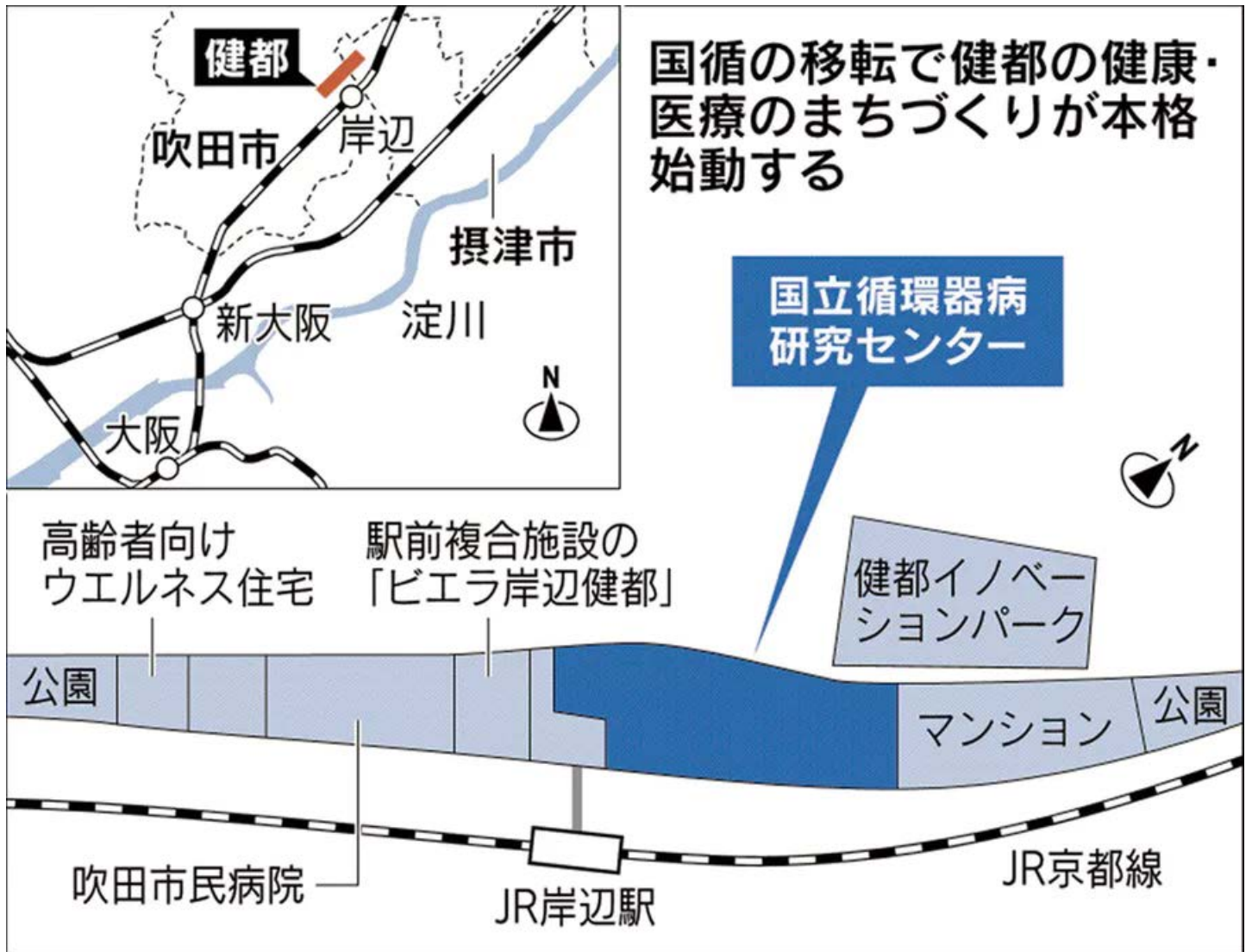
2019年6月28日 7:35 (2019年6月28日 19:04 更新) [有料会員限定]

脳卒中や心臓血管病など循環器病の高度専門病院の国立循環器病研究センター（国循）が7月1日、大阪府吹田市の北部から同市と摂津市にまたがる北大阪健康医療都市（健都）に移る。新施設の目玉が共同研究拠点で、帝人やコニカミノルタなど13社と1大学の入居が決まった。最先端治療を手がける医師と一つ屋根の下で、新薬や医療機器などの開発を本格化させる。



JR東海道線の岸辺駅前に立地する国循の新しい施設

JR大阪駅から東海道線で12分。岸辺駅の前にある地上10階建ての建物（延べ床面積約13万平方メートル）が国循だ。病院（550床）と研究所、オープンイノベーションセンターの3部門からなる。健康・長寿につながる産業拠点の形成を目指す健都の中核となる。



3階にあるのが共同研究施設の「オープンイノベーションラボ」だ。広さは2100平方メートル。いくつかの研究室に分かれている。病院との間に金属製の扉が1枚あるだけで、細長い廊下が手術室とつながる。空き時間があれば医師が気軽に立ち寄れる距離とハードルの低さを感じた。

国循と共同研究する企業や大学の入居が決まり、面積の9割近くが順次稼働する。共同研究テーマは創薬から治療法、医療機器、サービスの開発まで幅広い。

オープンイノベーションラボでの主な共同研究案件	
入居企業	共同研究の概要
帝人	加齢による体力低下「フレイル」の予防・治療薬の開発
ひむかAMファーマ	生理活性ペプチド「アドレノメデュリン」を使った脳血管疾患の予防・治療薬の開発
クロスエフェクト	心臓模型の医療機器としての承認分類の引き上げ、院内ものづくり拠点の構築
コニカミノルタ	赤外線カメラと電波センサーを使った在宅介護向け見守りシステムの開発
GEヘルスケア・ジャパン	医療画像データと治療データをAIでビッグデータ解析し、患者に応じた治療計画を作成
東和薬品	小児や水分制限患者らを対象にした患者ごとの薬物治療法の確立など
その他の入居企業・大学) フィリップス・ジャパン、キヤノンメディカルシステムズ、第一三共、ブリストル・マイヤーズスクイブ、JSR、セコム医療システム、大阪薬科大学、血液検査関連の企業	

帝人を中心とする研究グループは「フレイル」と呼ばれる加齢による心身の活力低下に対する予防・治療薬の開発に取り組む。成功すれば世界初となる。日本医療研究開発機構（AMED）と委託研究契約を結んだ。

フレイルの予防は健康寿命を延ばし、介護費用の社会的コストを削減する効果がある。帝人の狩野理延グループリーダーは「基礎研究から臨床試験（治験）まで一体的にできる環境は他にはない」と入居の狙いを話す。

宮崎大学発の創薬スタートアップ、ひむかAMファーマ（宮崎市）は生理活性ペプチド「アドレノメデュリン」を使って、脳梗塞など脳血管分野の疾患の予防・治療薬を開発する。「国循が持つこの物質の基礎研究の実績が生かせる」（新城裕司社長）と期待する。

ものづくり企業も入居する。心疾患の診断や模擬手術に使う心臓模型を手がけるクロスエフェクト（京都市）だ。患者のコンピューター断層撮影装置（CT）などの画像データを使って3Dプリンターでつくる心臓模型は1個20万～50万円するが、医療機器としての承認レベルを引き上げて保険対象とし、患者の経済的負担を軽減する。

院内のものづくり拠点とも位置づける。3Dプリンターを設け、臓器模型から器具までの試作品をつくり、医師から即座に助言を得る。「医師は打ち合わせの時間さえ取りにくいだが、院内に常駐することで『御用聞き』しやすくなる」（畑中克宣専務）という。

コニカミノルタは在宅介護向けの見守りシステムを開発する。同意を得た患者の病室に赤外線カメラと電波センサーを設置して、行動や心拍数などのデータを蓄積する。解析に医師の知見を生かして体調の変化や異常の兆候を事前に予測できるようにする。

国循は年間200件程度の企業との共同研究を進めてきたが、企業側の拠点がなく、多忙な医師との連携が難しい面もあった。健都という新たな産業クラスターへの移転を機に、企業との共同研究拠点を設けて意思疎通を円滑にする考えだ。



企業の研究者らの交流の場となるサイエンスカフェ

国循は入居企業どうしの異業種交流も促す方針だ。ラボの近くにある「サイエンスカフェ」が交流拠点となる。会員制とし、健康・長寿に関するセミナーや事業計画のプレゼンテーションイベントを開催する。

企業にとっても異業種交流による新たなオープンイノベーションの可能性は魅力だ。国循の湯元昇オープンイノベーションセンター長は「単なるスペースの提供では新たなイノベーションは生まれない。有意義な交流を具体的にどう仕掛けていくかは今後の課題だ」と話している。（木下修臣）

▼国立循環器病研究センター（国循）の北大阪健康医療都市（健都）移転 国循は6つある国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）の1つで、1977年に大阪府吹田市の千里地区に開設した。JR岸辺駅近くの旧国鉄吹田操車場跡地（30ヘクタール）に整備する健都に移転し、健康・長寿につながる複合医療産業拠点の中核機関となる。

国循は心臓病や脳卒中などの循環器病について、最先端の治療を研究・実践する役割を持つ。心臓移植は国内最多の121例（2019年3月）で、10年生存率は95%と世界でも最高水準だ。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

No reproduction without permission.